

大型クラゲの出現状況(国際フェリー調査結果等)について-第2報-

1. 大型クラゲの出現情報

(1) 東シナ海における調査船による目視調査結果※¹

① 実施期間 令和8年6月18日～25日

結果 東シナ海西部の10地点での出現量(平均密度) 0.14個体/100m²。

〔 昨年同時期の結果(0.003個体/100m²)よりかなり多い。 〕

(2) 対馬海峡における国際フェリー(博多-釜山航路)による目視調査結果※¹

① 実施期間 令和8年6月16日

結果 対馬海峡では目撃されなかった。

〔 昨年同時期の結果(6月18日、西水道で0.0002個体/100m²の出現)より、出現時期は遅い。 〕

② 実施期間 令和8年6月30日

結果 対馬海峡西水道で9個体(傘径40～70cm)、東水道で4個体(傘径50～60cm)を目撃した。出現量(平均密度)は西水道で0.00097個体/100m²、東水道で0.00018/100m²です。

〔 昨年同時期の結果(7月1日に対馬海峡で目撃されなかった)より出現量が多い 〕

③ 実施期間 令和8年7月14日

結果 対馬海峡西水道で39個体(傘径30～80cm)、東水道で51個体(傘径20～80cm)を目撃した。出現量(平均密度)は西水道で0.00456個体/100m²、東水道で0.00231/100m²です。

〔 昨年同時期の結果(対馬海峡での出現量:西水道24個体、0.0030個体/100m²、東水道8個体、0.00036個体/100m²)より出現量が多い 〕

※1. 国立研究開発法人水産研究・教育機構及び国立大学法人長崎大学、学校法人東海大学により構成される「大型クラゲ国際共同調査共同研究機関」が実施。

(3) 東シナ海から日本沿岸水域における出現の確認※²

- ・令和8年4月26日から6月12日にかけて、東シナ海において2～200個体程度の出現を確認した。6月21日には、対馬西沖で出現を確認した(1個体、傘径25～30cm)。
- ・令和8年6月25日には、長崎県対馬市美津島町の定置網で出現を初めて確認した(1個体、

傘径 35 cm)。

- ・令和 8 年 6 月 28 日には、東シナ海において、5 個体の出現を確認した (傘径 40～60 cm)。
- ・令和 8 年 6 月 29 日には、長崎県対馬市上対馬町の定置網で出現を確認した (1 個体、傘径 40 cm)。
- ・令和 8 年 7 月 6～9 日の期間において、長崎県対馬市上対馬町 (1 個体、傘径 40 cm) ・長崎県対馬市美津島町 (10 個体、傘径 40 cm)、長崎県対馬市厳原町 (5 個体、傘径 30～40 cm) の定置網で出現を確認した
- ・令和 8 年 7 月 10 日には、長崎県対馬市厳原町の定置網で出現を確認した (1 個体、傘径 30 cm) ほか、島根県の定置網で出現を初めて確認した (1 個体、傘径 40 cm)
- ・令和 8 年 7 月 14 日には、長崎県対馬市美津島町の定置網で出現を確認した (4 個体、傘径 40 cm)

※ 2. NPO 法人水産業・漁村活性化推進機構の委託を受けて、一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた情報、及び国立研究開発法人水産研究・教育機構の調査船調査の結果による。

2. 出現動向の概要

東シナ海における調査船による目視調査の 6 月出現量は昨年よりもかなり多く、日本周辺で規模程度の出現であった一昨年の同調査結果に比べても多い状況です。対馬海峡 (博多～釜山間) における国際フェリー目視調査では、6 月中旬に出現は確認されませんでした。6 月下旬の調査では、対馬海峡西水道で 9 個体、東水道で 4 個体を確認し、7 月中旬の同調査では、対馬海峡西水道で 39 個体、東水道で 51 個体を確認されました。6 月下旬以降、継続して出現が確認されており、その出現数は増加傾向です。また、日本沿岸水域においては、6 月 21 日に対馬西沖、6 月 25 日に対馬東側沿岸の地先で 1 個体ずつ確認され、6 月 29 日に対馬北部で 1 個体の出現が確認されて以降、7 月上旬には対馬沿岸で断続的に出現が確認されました。7 月 10 日には島根県で 1 個体の出現が確認され、分布が東方に広がっています。韓国沿岸における出現状況は、7 月中旬まで例年並みで、出現率は低い傾向ですが、東シナ海北部 (済州島周辺) では、5 月下旬に過去 10 年間で最も多い大型クラゲの出現が確認されています。以上のことから、6 月下旬以降、韓国に近い対馬海峡西水道と九州に近い対馬海峡東水道の両方向から日本海へ少量の大型クラゲの流入が始まっていると考えられます。対馬海峡西水道から流入した大型クラゲの多くは日本海の沖合域を北上し、日本沿岸にはほとんど接近しないと考えられますが、対馬海峡東水道から流入した大型クラゲの一部は日本沿岸を沿って東に輸送されと考えられます。対馬周辺での目撃情報を基に日本海における移動予測計算を行った結果では、対馬海峡から流入した大型クラゲの一部が山陰沿岸海域に沿って北上、8 月中旬には能登半島に到達し、9 月下旬に津軽海峡を通過すると考えられます。

3. 今後の調査計画

日本海への大型クラゲの流入量の変動把握と、日本海に入った大型クラゲの動向に注視し、引き続き日本周辺海域における大型クラゲの出現状況のモニタリング※ 3、出現状況に関する情報提供※ 4 を行ってまいります。

※ 3. 主な大型クラゲ出現状況調査の実施予定（7月下旬～9月上旬）

（国際フェリーによる目視調査）

令和8年7月下旬：博多－釜山間の国際フェリーによる目視調査

令和8年8月中旬：博多－釜山間の国際フェリーによる目視調査

令和8年9月上旬：博多－釜山間の国際フェリーによる目視調査

※ 4. 大型クラゲ出現状況調査の結果については、以下でお知らせしております。

国立研究開発法人水産研究・教育機構

大型クラゲ関連情報 URL：

https://www.fra.go.jp/shigen/marine_environment/kurage/kurage.html

本件照会先（担当者）：

本部 研究戦略部 清水・日下 TEL 045-277-0257

水産資源研究所 水産資源研究センター 海洋環境部 西内 TEL 095-860-1665